

薩摩川内市長 岩 切 秀 雄 殿

# 提 言 書

薩摩川内市女性50人委員会

平成24年9月

# 目 次

1	第4期薩摩川内市女性50人委員会提言を行うにあたって 薩摩川内市女性50人委員会会長 小島 恵里	1
2	提 言	
(1)	生活環境分科会	2
(2)	保健福祉分科会	6
(3)	産業経済分科会	11
(4)	教育文化分科会	18
3	提言作成経過	24
4	薩摩川内市女性50人委員会名簿(第4期)	26

## 第4期薩摩川内市女性50人委員会提言を行うにあたって

平成23年5月に第4期女性50人委員会が発足し、生活環境・保健福祉・産業経済・教育文化の4つの分科会に分かれて活動してまいりました。

同年3月、九州新幹線全線開通の前日に東日本大震災に見舞われ、ショッキングな映像に自分の目を疑いました。そして、この日を境にして日本が変わったと感じるのは、私だけではないと思います。原子力発電所の立地する本市においても、前途多難な状況であることは言うまでもありません。だからこそ今、新しい時代に向かって何ができるか、市民一人ひとりが知恵を絞り、汗をかいて、本市の明るい未来を切り開いていきたいと思えます。

今期女性50人委員会は、本市の目標である「市民が創り、市民が育む交流躍動都市」の実現にふさわしい「生活者の視点」で練り上げた25項目を提言いたします。委員同士の熱い議論に、意見が衝突することもありました。実際に現地に出向き、或いは担当者も招へいし、肌で感じたり調べたりして、50人全員の思いが形になったものです。

女性の視点での防災マニュアル作成や九州新幹線・川内甕島航路に焦点を合わせた甕島観光について、ほかにも子育て支援、生涯学習など多岐にわたっています。また、今期は薩摩川内市議会議員の方々と意見交換会を行うなど、より積極的に政策に関わることができました。

このような機会を設けていただいたことを感謝しつつ、今後も薩摩川内市の更なる発展のために、当委員会が役に立てるよう願っております。

平成24年9月

薩摩川内市女性50人委員会

会 長 小島 恵里

## 薩摩川内市女性50人委員会 生活環境分科会提言

テーマ：「人々が安全で安心して、やさしさを持って暮らしていけるまちづくりを目指して」

～美しい環境と生き生きとした街並景観の実現を～

はじめに

生活環境分科会の4期目は、新委員6名と継続委員5名の計11名のメンバー構成で始まりました。各委員から出された議題は8項目ほどありましたが、凝縮して3項目にまとめ検討していくことになりました。

第1にごみ問題（不法投棄等）で、このことは毎期議題に挙がります。第2に昨年発生した東日本大震災と原発事故による災害時の避難所での対応、そして、第3に街並景観（グリーン作戦）についてです。テーマが少々長くなりましたが、女性の視点を生かしたものになったと思います。内容と詳細は、提言の一覧表をご覧ください。

鹿の子百合については、第3期から継続して川内駅西口広場にプランターを設置してきたことがきっかけになり、平成24年度から10名の会員で自主活動グループ「鹿の子百合愛好会」を立ち上げ、活動を行っています。

1期2年の早さをつくづくと感じ、女性50人委員会で、改めて女性の立場からいろいろ検討できたことに感謝申し上げます。そして、一人ひとりの心がけで、生活環境は良くなっていくと信じています。

最後に提言が実現されますことを願っております。

生活環境分科会会長 中村 晶代

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
1 粗大ごみの不法投棄、粗大ごみの収集方法			
<p>粗大ごみや電化製品の不法投棄が、人通りの少ない道路脇や河川敷等で見られる。そこで、粗大ごみについても、収集方法等を検討する必要があるのではないか。</p>	<p>①川内クリーンセンターへの粗大ごみの搬入を無料化する。</p> <p>②現在の不燃ごみ袋を大きくし、粗大ごみも搬出できるようにする。</p> <p>③不燃ごみ袋で回収してもらえない粗大ごみについては、不燃ごみ袋の代わりに粗大ごみ用シール（仮称）を作成し、シールの有料販売を行う。シールは粗大ごみに直接貼りつける方法とする。</p> <p>④従来の不燃ごみ収集日のほかに、粗大ごみ収集日を月1回設ける。</p>	<p>・川内クリーンセンターへの搬入を無料化することで、粗大ごみや電化製品等の不法投棄が減り、環境美化にもつながるのではないか。</p> <p>・現在の不燃ごみ袋に収納しきれないごみは、川内クリーンセンターに個人で搬入しなければならず、高齢者や体の不自由な方、また、自家用車を所有していない市民は大変苦慮している。そのため、不燃ごみ袋を現在のサイズより大きくして、大きさについても数種類用意し、ごみの大きさに合わせ、使用できるようにする。また、不燃ごみ袋で回収してもらえない粗大ごみについては、直接粗大ごみに有料シールを貼りつけて、市に回収してもらう方法をとる。</p> <p>・粗大ごみについては、不燃ごみ袋で搬出するものやシールを貼りつけて搬出するものなど、品目毎に取り決める。</p>	<p>・自治会の総会など住民が集まる時に、声かけ・呼びかけを行い、ごみの分別・不法投棄等へのモラルや意識の向上を図る。</p> <p>・粗大ごみを出す際は、不燃ごみ袋に名前を書く。（回収できず、ステーションに置かれたままとなった際の対応、対処ができる。）</p>

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
2 災害時の避難場所での設備の充実について			
<p>災害時に、安全で安心できるよう避難場所を充実させることはできないか。</p>	<p>①女性の視点からの防災対策マニュアル（リーフレット）を、早急に作成する。</p> <p>②ペットとの同行ができる避難場所での環境づくりをする。</p>	<p>・女性に配慮した避難場所づくりを取り入れたリーフレットの作成 【大分県の防災体制づくり：リーフレット「女性の視点からの防災対策のススメ」を参考にする。】</p> <p>・実際の避難場所での生活は、大変なストレス生活であり、マスコミが報道していない部分がある。女性が関わって作成したリーフレットは、日常生活でも役に立つ。（からだの不自由な方や高齢者の方、小さな子ども達への配慮等。）</p> <p>・ペットが苦手な人達のこと考え、リーフレット作成時に問題を検討する。</p>	<p>・日頃から災害等に関する情報を良く聞く。</p> <p>・市から配布された情報紙や常日頃から新聞等を読み、防災対応への意識を持つ。（本年度配布された「防災資料保管用袋」等の確認）</p> <p>・避難時等の防災関連用品の常備をする。（非常持出品）</p> <p>・緊急時における周囲への情報提供とスムーズな避難対応ができるように心がける。（地域内での連帯感を持ち、自主防災組織での訓練をする。）</p> <p>・リーフレット作成においては、女性の側から積極的な意見を出す。</p>

生活環境分科会提言

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
3 グリーン作戦として			
<p>現在、国道3号線沿いに石のプランターが、向田町側に49個、大小路町側に39個の合計88個が設置してある。</p> <p>平成23年度に全国都市緑化かごしまフェアが開催されたため、平成22年度と平成23年度は薩摩川内造園技術協会が中心となり、川内駅前や国道3号線沿いも花の手入れ等がなされ、年間を通してきれいであった。しかし、現在は花もまちまちで、手入れが行き届いていないように思われる。</p> <p>薩摩川内市のメイン通りである国道3号線を、石のプランターを生かし、鹿の子百合の時期には鹿の子百合をメインにして、また、年間を通して季節の花で潤いを与えたい。</p>	<p>薩摩川内市の市花である「鹿の子百合」の球根と年間を通して花苗を市から提供してもらい、花の管理をシルバー人材センター等に委託し、石のプランターを活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3期にも提言したが、継続事業として川内駅西口広場、東口広場は花が少ないので、鹿の子百合や季節の花の寄せ植えをしたい。</li> <li>・市花である鹿の子百合をもっとPRしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花の管理については労力もかかるが、美しく咲こうとする花々を愛でる気持ちを持って、気づいた時はプランターの草を取る等気持ちを向ける。</li> <li>・現在、鹿の子百合については、女性50人委員会の中から自主活動グループ「鹿の子百合愛好会」が発足し、活動が始まっている。</li> </ul>

生活環境分科会提言

薩摩川内市女性50人委員会 保健福祉分科会提言

テーマ：「暮らしやすい街づくりを目指して」

～健康で豊かな生活を送るために～

はじめに

15人の委員でスタートした保健福祉分科会は、住んでいる地域の特性を話しながら、生活する上で不便なことや住みやすく暮らしやすい薩摩川内市になるにはと、時間をかけ話し合いを進めてきました。今回は、5つの提言をいたします。

子育て支援からゴールド集落の活性化に伴うもの、市の相談窓口に女性を増やす等、身近に暮らす日常の中から委員が感じ、地域の現状を声として拾い、お互いに意見を交換しながら学習を進めてまいりました。

ご多忙な中、各関係機関の皆様には、討議並びに質問に対して丁寧にご説明いただき、感謝しております。

少子高齢化の進む本市の中で、男女が仕事・家庭・地域の活動とともにバランスよく参画する「暮らしやすい街づくりを目指して」、そして「健康で豊かな生活を送るために」理解をいただき、この提言が活かされ、市民の生活に反映できるように心から願っております。

また、市民の生活がより良くなるために、討議する貴重な機会を与えられましたことを、分科会の委員一同心から感謝申し上げます。

保健福祉分科会会長 内野 久子



現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
1 子育て支援について			
<p>病児・病後児を預かってくれる施設が、市内には「ぐうちよきぱー（関小児科：6名）」しかない。</p> <p>ファミリーサポートセンターの現行システムでは、病児・病後児は預かってもらえない。</p>	<p>ファミリーサポートセンターの事業内容を見直し、病児・病後児も預かれるシステムに改善する。</p>	<p>・ファミリーサポートセンターの事業内容を見直し、病児・病後児を預かってもらうことで、ファミリーサポートセンターの利用も増えていくと考えられる。</p>	<p>・ファミリーサポートセンターを、積極的に利用する。</p>
2 生活保護のケースワーカーについて			
<p>本市では生活保護のケースワーカー9名中、女性が1名である。女性にしかサポートできないこともあるので、もっと女性ケースワーカーを、増員する必要があるのではないか。</p>	<p>女性ケースワーカーが現在1名なので、女性嘱託員の不在時や時間外での相談等が重なった時に、女性ケースワーカー1名では不都合が生じる可能性もあるので、女性ケースワーカーを増員する。</p>	<p>・生活保護受給者は、女性や高齢者の割合が比較的高いため、男性ケースワーカーが担当するより、女性ケースワーカーが担当したほうが好ましいと思われる場合もある。</p> <p>・女性ケースワーカーが1名では、時間外での対応の際、不都合が生じる場合もあるのではないのでしょうか。</p> <p><b>【例】</b> 女性の一人暮らし宅への訪問 DV被害者からの相談等</p>	<p>・各地域で生活等に困窮している人を見つけた時は、市役所へ連絡をする。</p>

保健福祉分科会提言

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
3 下甌地区のへき地保育所について			
<p>平成25年4月から青瀬小学校跡地に認可外へき地保育所が開園することであるが、下甌地区の多数の人々が開園を望んでいるので、是非とも、実現してほしい。</p> <p>島外通院や勤務体制が不規則な人が多いので、一時保育と延長保育も是非とも実現してほしい。</p>	<p>へき地保育所でも、一時保育及び延長保育を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人たちに下甌地区に留まって働いてもらい、過疎化を食い止め、活性化していくためになくしてはならない施設である。</li> <li>・転入者で島内に身寄りや親せきもなく、子供と2人で育児ノイローゼになりかけたという声もあったので、一時保育を是非とも実現してほしい。</li> <li>・島内では不規則な勤務が多く、子供を預かってくれる施設もなく、子供が一人ぼっちになり、仕事を辞めざるを得ない状況になったという声もあったので、延長保育も是非とも実現してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ぐるみで幼児教育に関心を持ち、見守りや声かけ、地域にとけこめるような支援を行う。</li> <li>・若い人たちが、夢を持って就労できるような地域づくりを目指す。</li> </ul>

保健福祉分科会提言

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
4 訪問給食について			
<p>訪問給食の利用申請を行ったとき、条件が合わなくて利用できなかったという高齢者夫婦の話聞いたことがある。</p> <p>食事は、自宅で暮らす高齢者にとって大事な生活の一部である。様々な理由で訪問給食を希望したとき、即対応でき、おいしく食べられ、経済的にも安価で利用しやすい訪問給食制度に変更できないか。</p>	<p>①同居者がいると利用できないため、サービスを利用したい人が利用できるように変更する。</p> <p>②利用者に合う給食を実現する。（食材の柔らかさや大きさ等）</p> <p>③負担金が均一では、低所得者等は苦慮する。所得に応じた料金設定に変更する。</p> <p>④委託業者任せではなく、市が定期的に利用者からアンケート調査を行い、改善点等の検討を行う。</p>	<p>・利用しやすい訪問給食制度へ改善、見直しを希望する。</p>	<p>・民生委員、健やか支援アドバイザーが、高齢者宅を見守り訪問するときに、訪問給食のサービスが必要な方に案内をする。</p> <p>・訪問給食を利用している人には、声かけをして要望を聞き、所管課に伝える。</p> <p>・健康で長生きなどを目指して、介護予防事業が市で様々行われているので、将来を考え積極的に社会参加の機会を持つ。</p>

保健福祉分科会提言

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
5 ゴールド集落について			
<p>ゴールド集落支援事業を利用する自治会、または、支援するボランティア団体等が増える仕組みは作れないか。</p>	<p>①市民から希望者を募り、ゴールド集落サポート養成講座（仮称）を開催する。</p> <p>②高齢者の多い自治会をゴールド集落サポート養成講座（仮称）の受講修了生と共にサポートする体制を作る。</p>	<p>・ゴールド集落支援について説明を受け、様々な支援制度があることが分かった。支援対象である自治会も制度をよく知らない、また、大変だと感じて行動に移せない現状がある。市の出前講座等を利用し、支援制度を理解することで、人材不足の部分をゴールド集落サポート養成講座（仮称）の受講修了生と共にサポートする仕組みはできないか。</p> <p>※現在、市が行っている支援制度は、ゴールド集落（今年度85自治会）に支援職員を配置し、そのゴールド集落を有する地区コミ（34地区）にリーダー配置を行っている。その仕組みをサポートする養成講座の開催。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールド集落サポート養成講座を受講する。</li> <li>・働きながら地域の行事に参加する。（定年を待たずに地域行事に積極的に参加する。）</li> <li>・学ぶ機会を積極的に得る。</li> <li>・ゴールド集落の状況を理解する。</li> <li>・若い人がすすんで住みたくなる自治会作りを行う。</li> <li>・声をかけ合って参加の気運を高める。</li> <li>・世代間交流の機会を多く作る。</li> </ul>

保健福祉分科会提言

薩摩川内市女性50人委員会 産業経済分科会提言

テーマ：「ひとやモノが行き交い、躍動するまちづくり」

～見て、歩いて、楽しいまちをめざして～

はじめに

今回の提言作成にあたり、ご多忙の折、関係各課におきましては討議並びに質問などに対し、真摯にご回答いただき、また、市議会議員の方々との意見交換会でも、女性の視点から討議できる貴重な機会を設けていただけたことに、深く感謝申し上げます。

当分科会では、「観光案内所等の整備」・「観光資源の活用」・「中心市街地の活性化」という三つの柱を掲げ、委員全員で検討し、楽しく学び合いました。

市内一円と一言では言えないくらい広域な本市の産業経済においては、課題も山積しております。私たちも含め、市民一人ひとりがその現状をすべて把握できていない中、各地域が積み上げてきた歴史や文化、そこに住む「人」を大切にしながら一歩ずつ進んでいくことが、躍動するまちづくりに繋がると思います。その具体的な第一歩として、以下の提言にまとめました。

何卒、ご理解の上、現実化していただくことを委員一同切に願っております。

産業経済分科会会長 犬井 美香

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
1 観光パンフレットと観光地整備			
<p>近年出版された「薩摩川内えびそード100」は、写真がとても美しく、薩摩川内市の魅力が満載された観光ガイド本であるが、この本を見て、実際に行く観光客のための道路標識や地図、案内板、駐車スペース等が不足しているように思われる。</p>	<p>観光ガイド「薩摩川内えびそード100」に沿った観光地の整備を行う。例えば「薩摩川内えびそード100」に掲載された観光地にある案内板に、「かっぱのキャラクター」と「薩摩川内えびそード100に掲載されている番号」を表示する。</p>	<p>・多くの名所を紹介した様々な観光マップが、複数の所管課で作成されているが、実際の観光に活かされていないように思われるため。</p> <p>・「薩摩川内えびそード100」に掲載されている番号を、観光地に設置してある看板に表示することで、観光客が目的地に到着したことが、容易に分かるようになるため。</p>	<p>・地域の名所を「地域の宝」と捉え、自治会や子ども育成会の活動に活かす。中には除草や清掃活動に対して市からの補助金が出るものがあるので、その制度を活用する。</p>
2 川内駅における観光案内について			
<p>川内駅の観光案内所が利用しづらい。観光協会が駅の2階の奥まった場所にあり、中央の案内カウンターも案内表示や看板がなく、職員もいない時間帯が多いので、人目につきにくい。また、エスカレーター上にあるモニターは素通りされ、見ている人はほとんどいないように思われる。</p>	<p>①観光協会を、西口と東口をつなぐ通路上（市道）へ移動させる。</p> <p>②観光客が、観光案内所であることを一目で見わかるように、川内駅構内に案内表示や看板を設置する。</p> <p>③エスカレーター上にあるモニターを、待合所に移動させ、待ち時間に眺められるようにする。</p>	<p>・九州新幹線が開通し、本市への観光客の増加に力を入れている一方で、表玄関である川内駅の観光案内が不十分であるように思われるため。</p>	<p>・市外の知人等に観光案内所をPRする。</p>

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
3 藺牟田池の観光について			
<p>藺牟田池の観光案内所は、現在、「湖畔リゾートホテルいこいの村いむた池」の中にあり、メイン駐車場の近くにないので、観光客の多くは一番近くにあるアクアタイム生態系保存資料館に立ち寄り、情報収集をしている。</p>	<p>アクアタイム生態系保存資料館を、ビジターセンターのような情報発信の場と捉え、利用案内やパンフレットを設置し、イベント等の情報を提供する。また、利用しやすくするため、施設利用料を無料にする。あるいは、年間パスポート制とし、観光客が気軽に何度でも足を運べるようにする。</p>	<p>・ラムサール条約に登録されている藺牟田池の魅力をもっと知ってもらい、観光客のリピーターを増やすため。</p>	<p>・観光ガイドボランティアに登録し、活動する。</p>
4 入来武家屋敷群の観光について			
<p>個人の観光客が、入来武家屋敷群を訪れても、どのように廻っていいのか分からない。</p> <p>現在は、観光案内所がなく、入来支所となりの資料館にパンフレット等が置かれ、また、そこがガイド（予約制）の窓口になっているようだが、それを知らせる看板もない。武家屋敷群の案内板はあるが、地図の向きと街の向きがあっていないため、大変見にくい。</p>	<p>入来武家屋敷群に観光案内所を設置し、案内板を分かりやすくする。</p>	<p>・現在、薩摩川内市の観光地を回る「ゆるっとバス」が入来武家屋敷群も周遊しているが、このバスやマイカーで来た個人の観光客が満足して観光できるようにする。</p>	<p>・観光ガイドボランティアに登録し、活動する。</p>

産業経済分科会提言

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
5 甑島への観光客の受入れについて			
<p>これまでの観光客は、帰省客と年配客が多かったが、これからは季節や世代を問わず、多くの観光客に来てもらえるようにする。</p>	<p>①旅行代理店と連携し、海、山の体験ツアーを販売する。(キャンプ、ダイビング、定置網体験、サバイバル体験・磯遊び等)</p> <p>②県内外の小中高の修学旅行ツアーを呼び込む。(海を知らない小規模小・中学校及び高校等の受入)</p> <p>③島内で行われているイベントをもっとPRし、観光客を呼び込む。</p> <p>④甑島行き的高速船及びフェリーの中で観光ガイドを配置し、甑島の観光案内ができるようにする。</p> <p>⑤高速船及びフェリーの中で地域の特産を活かしたお弁当等を販売し、船内でも甑島の食が楽しめるようにする。</p> <p>⑥観光客専用のバスを準備し、いつでも観光客を案内できる体制にする。</p> <p>⑦高速船及びフェリーで、回数券及びクーポン券を使用できるようにする。</p> <p>⑧テレビ及びラジオに繰り返し出演し、甑島をさらにPRする。</p>	<p>・海の幸、山の幸を活用したツアーを計画することで、PRできる。</p> <p>・海を知らない小中高の修学旅行を呼び込むことで、甑島をPRできる。</p> <p>・高速船及びフェリーで、回数券及びクーポン券を利用できることで、気軽に甑島へ足を運ぶ観光客が増加することが期待できる。</p> <p>・観光専用のバスを準備し、島内の交通アクセスを良くすることで、団体観光客を呼び込むことができる。</p>	<p>・本土地域の市民も甑島に行き、PRする。</p>

産業経済分科会提言



現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
6 甑島の観光資源の活用について			
<p>海がきれいで魚もおいしく、自然が心を癒してくれる宝の島、甑島が生かされていないのではないか。</p>	<p>①川内港への高速船就航の際は、甑島の魚や特産品を購入できるアンテナショップ（物産館）を、川内地域に開設する。</p> <p>②鹿島地域で発掘された恐竜の化石をもっと観光に活かす。</p>	<p>①手軽に甑島の魚が買えるアンテナショップを川内地域に開設する。（いけす等を活用）他の店と差別化するために「甑島の祭典」で入賞した作品が食べられ、魚が販売できる施設が良い。</p> <p>②鹿島地域で発掘された恐竜の化石を利用することで、観光客を呼び込むことができると思うが、鹿島地域では観光客の呼び込みに対し集落によっては温度差があり、全面的にPRできていない状況である。そのような状況であるため、市がもっと恐竜の化石を観光に活かしてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海や甑島の自然をいつまでもきれいに保つ。</li> <li>・住民が甑島をもっと知り、関心を持ち、どんどん島外に情報を発信していく。</li> <li>・甑島の良いところを再確認する。（食、文化等）</li> </ul>

産業経済分科会提言

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
7 中心市街地の活性化①（歩いて楽しいまちづくり）			
<p>中心市街地の空き店舗対策として、昨年度まで「商業者支援事業補助金」を活用してきたが、あくまでも事業者向けなので個人は利用できなかった。</p> <p>また、本年度より「テナントミックス支援」を行っているが、期間貸しなので、個人の行う単発のイベントには向かない。</p>	<p>市が中心市街地の空き店舗を借り上げ、リースペースとして市民に貸し出す。</p> <p>個人で実施するイベントやすてきびと（社会教育課所管）によるカルチャー教室の開催等、年間を通じている色々な世代の方が、中心市街地に足を運べるようにする。</p>	<p>・他の市町村では「イベントをしたい」と思うと、快く場所の提供をしてくれるが、本市は規制が厳しく開催ができない。そのことによって、市民が集まる場所が減り、歩いて町を散策することもない。ますます活気がなくなるので、空き店舗の環境を整え、安価に賃借できるようにすることにより、様々なイベントでの集客が見込める。また、屋外イベントが実施できるGモールは、普段はパチンコ店の駐車場になっており、広すぎて、個人が主催する小規模のイベントには向かない。</p>	<p>・一人ひとりが「薩摩川内市」をPRできるようにする。</p>

産業経済分科会提言

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
8 中心市街地の活性化②			
<p>「まちあいサロン」は、市街地を利用する方々のための無料休憩所になっているが、入口のガラス面に張り紙が多く、とても入りづらい雰囲気がある。また、「まちあいサロン」が、市民にあまり周知されていないように思われる。</p>	<p>入口をオープンにしたり、案内板を設置する等、気軽に立ち寄れる場所作りをする。</p>	<p>・中心市街地活性化を目的として設立された「まちづくり薩摩川内」で運営している無料休憩所は、バス停近くのととてもいい場所にあり、様々な情報発信の場としても有効活用されるべきである。利用しやすい雰囲気をつくることにより、人が集まり、街を歩き、活気が生まれる。</p>	<p>・まちあいサロンを積極的に利用する。</p> <p>・市の広報紙等で情報を取り入れる。</p>
9 中心市街地の活性化③			
<p>中心市街地には駐車場が少なく、買い物に不便を感じる。市営横馬場駐車場を利用した場合、車の出し入れ可能な時間が朝6時から夜10時までと短く、夜に飲食店を利用したときなどは特に忙しい。また、中心市街地の一部の店舗で、市営横馬場駐車場の料金が割引になるチケット制度を実施しているが、市民にあまり周知されていないように思われる。</p>	<p>市営横馬場駐車場の車の出し入れ可能時間を延長する。また、割引チケット制度を市民にもっと周知する。</p>	<p>・現在は車社会であり、買い物等はほとんど車を利用している。駐車場が広い郊外の大規模スーパー等には人は集まるが、駐車場の少ない市街地の商店街には人が集まらない。市街地には駐車場が少ないため、多少、遠くても郊外の大規模スーパー等を利用してしまいう傾向にある。</p>	<p>・中心市街地の商店街を利用する。</p>

## 薩摩川内市女性50人委員会 教育文化分科会提言

テーマ：「一人ひとりがより生き活きとし、心通い合うまちづくりを目指して」

はじめに

メンバーは一様に、今の生活に大体は満足しているようです。けれども、東日本大震災のその後の様々な話を聞いたり、台風・地震・噴火等の自然災害の危険と常に隣合わせている当地での防災や減災について思いを馳せるにつけ、本当に堅固でつながりの強いまちづくりが、安心して安全な日常生活につながるという思いに到りました。そのために大切なのは、日頃の生活の中での絆を作り、深めていけるような活動です。

私たちは、特に教育と生涯学習の視点から取り組みました。世代を問わず、もっと活発な交流が本市に生まれ、持続し、超高齢化社会となっても、皆が生き甲斐をもって、共に暮らせることを心から願っています。そのために、教育や文化の面の充実が欠かせません。まだまだやるべきこと、できることがあるように思います。

それぞれのメンバーの日頃の思いを吟味し、討議した上で提言にまとめました。時間が許せば、もっと深めることのできる幅広い分野です。今回の提言とその後の活用をふまえ、今後、更に有効で実現可能な提言につながることを期待しております。

教育文化分科会長 橋渡 よし江

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
1 家庭教育力の向上について			
<p>日常的に「きちんとあいさつができない」などの基本的な生活習慣の乱れが見られるように、家庭教育が十分でない家庭もあるようです。</p> <p>また、核家族化し、育児やしつけの面で悩みや戸惑いのある保護者に学びの機会をもっと欲しい。</p>	<p>家庭の教育力をさらに強化したり、補ったりするために、市としてもっと働きかけをする。たとえば、市として、具体的に教育についての専門家から話を聞ける場や、保護者の日常の悩みや戸惑いについて、もっと気軽に相談できる場などを作るような働きかけをする。</p>	<p>・自治会加入率が伸び悩む地域に見られるように、地域のつながりが弱くなってきているようである。PTAや子ども会等も参加率が芳くないところがある。</p> <p>例として、教育講演会や育児講演会等、魅力のある共に学習できる場を、学校・地域・家庭教育学級等がもっと提供できるように、講師の紹介や費用の負担についてきちんと援助し、その内容を確実に周知させる。</p> <p>・元氣塾の良いシステムがあるが、保護者や地域の人たちに十分情報が行き渡っておらず、恩恵にあずかることができない場合があるようなので、情報の周知徹底を図るように各学校にも勧める。地域の人たちも、子どもを地域の宝として大事に思っている場合も多く、保護者と共に学ぶ場がもっとほしい。</p>	<p>・地域の子ども達への声かけやあいさつをこちらからして、地域での見守りの目があることをアピールする。</p>

教育文化分科会提言

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
2 廃校利用について			
<p>市の学校再編により、廃校になった学校がある。地域の中で中心的な拠り所がなくなり、寂しく思っている地域住民がいる。せっきくの市の財産なのに、利用されない建物等がどんどん傷んでしまうもったいない。また、犯罪などに悪用される恐れもあり、住民の不安材料にもなっている。</p>	<p>早急に廃校の利用促進を図る機構を作り、市民全体の財産としての学校の利用を、促進していける体制を整える。</p>	<p>・各地域にある学校であっても、市民全体の財産と考え、広くその地域外の人たちも利用できるようにすることで、市の様々な活動を盛んにしていけるきっかけともなり得るのではないかと。利用されない時間が長くなればなるほど、再利用をする前に傷む恐れもあるし、犯罪などに悪用される恐れもでてくる。</p> <p>・廃校の管理等は、地域に一任されても荷が重過ぎる場合もある。全国的に見ても、地域のみでは事業を進めにくい現状がある。まずは市の主導での利用促進が望ましい。生涯学習や社会教育の拠点、イベント会場、体験交流型施設など、いろいろな可能性があるようだが、本市や地域の実情をふまえて十分に検証する必要もあるので、全市的な取り組みが良いのではないかと。また、利用の仕方や手続き等を、わかりやすく、市民に周知してほしい。</p>	<p>・積極的に廃校利用をしていく。また、自分たちの問題として、協力するようにする。</p>

教育文化分科会提言

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
3 日本の伝統文化を通じた教育事業の推進を図る			
<p>本市の子ども達は、全般に本物の伝統文化の舞台などにふれる機会が少ないように思う。また、基本的なあいさつや礼儀作法等がきちんと身につけていない子どもがみられる。</p>	<p>例えば、文化庁の進める事業（次代を担う子どもの文化芸術体験事業）や本物の伝統文化の舞台（東郷の人形浄瑠璃など）に触れる機会について、各学校や地域に紹介する。</p>	<p>・より豊かな人間性を養い、文化を担っていく世代を育てるために、本物の自国や地域の伝統文化にふれることができるようにするのは大人の役割だと思う。</p> <p>市民の文化事業に関する意識を高めていくためにも、市がもっと力を入れるべきではないかと考える。また、実際に着物を着たり、道具を持ったりして、日本の伝統文化にふれることによって、礼儀作法の向上もみられる。</p> <p>子どもたちが、もっと日本の伝統文化にふれる機会を与えたい。</p>	<p>・日本の伝統文化の良さにふれると、何歳になっても感動する。大人も自ら文化事業に理解を示し、子どもたちに積極的に勧める。</p>
4 生涯学習の市全体の情報をより入手しやすくするためには			
<p>本市の生涯学習講座に関わる情報が一元化されていないので、不便を感じている。</p>	<p>本市の全講座についての情報の一元化は簡単ではないだろうが、市民にとってより利用しやすいように、相談窓口の設置や情報の開示の仕方を工夫するなど、利便性を高めるために改善する。</p>	<p>・生涯学習講座には、市主催の講座もあるが、所管はコミュニティ課と社会教育課に分かれている。その他に民間主催の講座もあり、市民にとってはわかりにくい。イベント情報も含め、情報や相談の窓口がはっきりしていると、情報を得やすくなる。</p>	<p>・自分から積極的に情報を求めたり、生涯学習講座に参加したりする。</p>

現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
5 生涯学習の活性化を図るために①			
<p>講座の人数制限があり、新しい人が新しいことを始めにくい。また、目新しい講座が少ないか、目につきにくいようである。</p>	<p>生涯学習の推進は、健康で幸福な市民生活に欠かせない。市の主導で、各地区コミの生涯学習講座を更に充実させるために、問題を把握し、解決の助言ができるようなしくみが必要ではないか。</p> <p>例えば、コミュニティ主事が生涯学習の講座について、地区に具体的な提案ができるように、業務上明記し、指導を徹底させる。また、市が生涯学習コーディネーター（仮称）を置き、各地区の生涯学習講座について、積極的にいろいろな提案をできるようにする。</p>	<p>・地区の多くの生涯学習講座はほぼ決まっており、参加者も固定化している。異なる世代の交流や参加を増加させるためにも、新しい講座を開講したり、より住民が参加しやすい体制が必要である。しかし、そのためのノウハウや情報が十分でない場合もある。一度、モデル地区を決め、左記のようなことをしてみたらどうか。その上で、全市、全地区に同様に提案していくことを提言する。</p>	<p>・各地域の生涯学習講座にも積極的に参加する。</p>
6 生涯学習の活性化を図るために②			
<p>講座の人数制限があり、新しい人が新しいことを始めにくい。また、目新しい講座が少ないか、目につきにくいようである。</p>	<p>生涯学習講座の講師になりうる人材（個人またはグループ）を各地区コミから推薦してもらい、例えば、市の「すてきびと」制度を拡充したリストに掲載する。各地区コミは、そのリストから講師を依頼し、案として、「薩摩川内 地域の宝塾」として、新たな生涯学習講座を地区民に提案する。</p>	<p>・本市に埋もれている人材を有効に活用し、地区コミ間の横のつながりを強めるために、市が主導でこのような交流事業を提案することで、市内の交流がより活発になるのではないかと。また、講師になることを目指して研鑽する空気も醸成されれば、生き甲斐の創出にもつながると思われる。講座は、いろいろな年齢や層の地区民を対象にする。そうすることで、地域社会に比較的無関心な層もだんだんと地域社会の行事により積極的に参加するようになるのではないかと。</p>	<p>・個人で、また、友人・知人を誘ったりして、積極的に地域の講座等に参加する。</p>



現 状 と 課 題	提 言	提 言 理 由 ・ 説 明	市民にできること
7 持続可能な生涯学習のしくみに向けて			
<p>市内に講座はあるものの、講座を担ったり、新たに開講していく人材を育成していくしくみになっていないようである。また、市内や近郊の有能な人材も十分活用されているとは言い難い。</p>	<p>今一度、まずは市が担う生涯学習講座運営のしくみについて検証し、より多くの市民が参加・参画できるように改善をしていく。</p>	<p>・既存の生涯学習講座の多くは、参加者がずっと同じ講座生のままのものが多く、長年続ける中で、きちんと指導者を育成していく体制がない。また、生涯学習に関して、地域の人材育成の体制があれば、講座数の拡大、生き甲斐の創出にもつながると思われる。</p>	<p>・自分のやりたい講座を見つけて、積極的に参加する。いずれ講師になることも視野に入れる。</p>
8 市民の市政への関心をもっと高めるために			
<p>先日行われた県知事選挙で、本市の投票率は52.25%だった。</p> <p>これは、全般的に市民の政治への関心や有権者としての自覚の不足を表しているように思われる。今後の市政に関わる選挙で、急に投票率が上がるとは考えにくい。自分達のまちを作っていく意識が薄いのではないか。</p>	<p>子ども達に「自分達のまちは、自分達で作っていく」という意識が上がるような働きかけをする。例えば、市の出前講座や市議会議員の出前講座など、具体的で啓発的な取り組みを、子ども達に対して積極的に活用する。</p>	<p>・市民の払う税金で「行政が何かをしてくれる」意識から、財政が豊潤ではない現在、また、先の見通しもあまり明るくない今、市民と行政が共に自分たちのまちを良いまちにしていく意識を、市民がもっと持つことが望まれている。しかし、投票率に表れているように、政治についての啓発・教育がもっと必要だと思われる。</p> <p>そのために、学校教育の中で、早いうちから子どもたちに、自分たちの市について具体的に考える機会を積極的に与えたい。ちなみに、自治体レベルの投票率が常に70%以上のデンマークでは、12歳くらいから、討論・討議も含め、政治についての活発な授業がなされているようです。</p>	<p>・各自が必ず投票することはもちろん、家庭でも日頃から、広報紙や報道を参考にし、市政について話をするようにしたい。</p>

薩摩川内市女性50人委員会経過（第4期）

平成23年度

第1回全体会及び分科会	5月25日（水）	全体会	川内文化ホール
第1回代表者会	6月6日（月）	代表者会	川内文化ホール
第2回分科会	6月14日（火）	教育文化分科会	川内文化ホール
	6月15日（水）	生活環境分科会	川内文化ホール
	6月17日（金）	保健福祉分科会	川内文化ホール
	6月22日（水）	産業経済分科会	川内文化ホール
第3回分科会	7月12日（火）	教育文化分科会	川内文化ホール
	7月13日（水）	生活環境分科会	川内文化ホール
	7月15日（金）	保健福祉分科会	川内文化ホール
	7月27日（水）	産業経済分科会	川内文化ホール
第2回全体会	8月18日（木）	研修会 講師：石田尾 博夫氏（第一工業大学教授） 「男女共同参画講座」	川内文化ホール
第4回分科会	9月9日（金）	保健福祉分科会	川内文化ホール
	9月12日（月）	生活環境分科会	川内文化ホール
	9月20日（火）	教育文化分科会	川内文化ホール
	9月21日（水）	産業経済分科会	川内文化ホール
第5回分科会	10月12日（水）	生活環境分科会	川内文化ホール
	10月14日（金）	保健福祉分科会	川内文化ホール
	10月18日（火）	教育文化分科会	川内文化ホール
	10月26日（水）	産業経済分科会	川内文化ホール
男女共同参画フォーラム	11月27日（日）	国際交流センター 基調講演講師：山崎 大地 氏（国際宇宙サービス代表取締役社長） 「家族で叶えた宇宙への夢」	
第6回分科会	1月12日（木）	生活環境分科会	川内文化ホール
	1月25日（水）	産業経済分科会	川内文化ホール
	1月27日（金）	保健福祉分科会	川内文化ホール
	1月31日（火）	教育文化分科会	川内文化ホール
第2回代表者会	3月22日（木）	代表者会	川内文化ホール
（自主学習会）	2月15日（水）	生活環境分科会	川内原発展示館
	2月22日（水）	産業経済分科会	市内一円

平成24年度

第7回分科会	4月11日(水)	産業経済分科会	川内文化ホール
	4月12日(木)	生活環境分科会	川内文化ホール
	4月13日(金)	保健福祉分科会	川内文化ホール
	4月17日(火)	生活環境分科会	川内文化ホール
第8回分科会	5月9日(水)	生活環境分科会	川内文化ホール
	5月15日(火)	教育文化分科会	川内文化ホール
	5月16日(水)	産業経済分科会	川内文化ホール
	5月18日(金)	保健福祉分科会	川内文化ホール
第9回分科会	6月12日(火)	教育文化分科会	川内文化ホール
	6月13日(水)	生活環境分科会	川内文化ホール
	6月15日(金)	保健福祉分科会	川内文化ホール
	6月19日(火)	産業経済分科会	川内文化ホール
第3回全体会	6月27日(水)	研修会	川内文化ホール
講師：たもつ ゆかり氏(オフィス・ピュア)			
「男女共同参画の視点について」			
市議会議員との意見交換会	7月10日(火)	【保健福祉分科会、教育文化分科会】	川内文化ホール
	7月13日(金)	【生活環境分科会、産業経済分科会】	川内文化ホール
第10回分科会	7月18日(水)	生活環境分科会	川内文化ホール
	7月19日(木)	教育文化分科会	川内文化ホール
	7月24日(火)	保健福祉分科会	川内文化ホール
	7月26日(木)	産業経済分科会	川内文化ホール
第3回代表者会	8月10日(金)	代表者会	川内文化ホール
第4回全体会	8月29日(水)	全体会	川内文化ホール
提言提出	9月25日(火)	(代表者6名)	市長応接室
男女共同参画フォーラム	10月13日(土)	国際交流センター	
基調講演講師：松永 信也 氏(京都府視覚障害者協会副会長)			
「見えない世界で生きること」			
第5回全体会	3月中	提言結果報告会	川内文化ホール

薩摩川内市女性50人委員会委員名簿（第4期）（任期H23.4.1～H25.3.31）

生活環境分科会（第1分科会）

NO	氏名	地区	備考
1	中村 晶代	亀山	分科会会長
2	石原 弘子	上甌	分科会副会長
3	窪田 美由喜	可愛	分科会書記
4	瀬野 みつる	峰山	分科会書記
5	堂脇 明美	亀山	
6	永峯 洋子	可愛	
7	中村 昌代	滄浪	
8	松永 恵子	隈之城	<b>委員会書記</b>
9	的場 浩子	山田	
10	村上 栄子	永利	
11	山内 弘美	峰山	

産業経済分科会（第3分科会）

NO	氏名	地区	備考
1	犬井 美香	藤川	分科会会長
2	石原 ミツ子	倉野	分科会副会長
3	木村 厚子	亀山	分科会書記
4	中川 純子	西山	分科会書記
5	池上 あけみ	水引	
6	小原 美津子	川内	
7	香山 由美子	亀山	
8	小島 恵里	平佐西	<b>委員会会長</b>
9	小村 佐江子	鹿島	
10	手打 陽子	西方	
11	時吉 絵美	亀山	
12	中野 艶子	鹿島	
13	福寿 ゆかり	八幡	<b>委員会副会長</b>

保健福祉分科会（第2分科会）

NO	氏名	地区	備考
1	内野 久子	斧淵	分科会会長
2	川原 和代	城上	分科会副会長
3	川上 四方子	清色	分科会書記
4	徳永 法子	南瀬	分科会書記
5	内田 里子	樋脇	
6	大坪 美恵子	育英	<b>委員会書記</b>
7	加治屋 美代子	高来	
8	大毛 ゆり	子岳	
9	田中 美保子	平佐西	
10	遠矢 すみ子	吉川	
11	延時 美由紀	青瀬	
12	早川 しげ子	長浜	
13	原口 洋子	陽成	
14	前園 典子	斧淵	
15	宮里 トミ子	朝陽	

教育文化分科会（第4分科会）

NO	氏名	地区	備考
1	橋渡 よし江	平佐西	分科会会長
2	新満 裕子	育英	分科会副会長
3	梶原 ひとみ	里	分科会書記
4	宮里 英子	高来	分科会書記
5	石神 陽子	副田	
6	江口 玉美	手打	
7	大山 仁江	平佐東	
8	竹田 千鶴子	湯田	
9	田畑 陽子	市比野	
10	野久尾 弘子	鳥丸	
11	枇杷 眞弓	川内	

